平成26年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年11月5日

上場会社名　株式会社 ナガセ　　上場取引所　東
コード番号　9733　URL　http://www.toshin.com
代表者　(役職名) 代表取締役社長　(氏名) 永瀬昭幸
問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役　(氏名) 永瀬照久　TEL 0422-45-7011

四半期報告書提出予定日　平成25年11月13日
配当支払開始予定日　―
四半期決算補足説明資料作成の有無　：　無
四半期決算説明会開催の有無　：　無

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年3月期第2四半期の連結業績(平成25年4月1日～平成25年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)　(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第2四半期	16,545	4.5	506	―	320	―	146	―
25年3月期第2四半期	15,830	△2.5	△71	―	△336	―	△378	―

(注)包括利益　26年3月期第2四半期　61百万円　(―%)　25年3月期第2四半期　△385百万円　(―%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第2四半期	15.40	―
25年3月期第2四半期	△39.57	―

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
26年3月期第2四半期	49,204	9,531	19.4
25年3月期	42,382	10,359	24.4

(参考) 自己資本　26年3月期第2四半期　9,531百万円　25年3月期　10,359百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	―	0.00	―	80.00	80.00
26年3月期	―	0.00			
26年3月期(予想)			―	80.00	80.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無　：　無

3. 平成26年 3月期の連結業績予想(平成25年 4月 1日～平成26年 3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	39,263	4.3	4,659	14.2	4,073	8.8	2,016	26.1	210.91

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無　：　無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 ―社 (社名) 、 除外 ―社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	26年3月期2Q	10,148,409 株	25年3月期	10,148,409 株
② 期末自己株式数	26年3月期2Q	637,019 株	25年3月期	590,019 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	26年3月期2Q	9,529,434 株	25年3月期2Q	9,575,215 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表に対するレビュー手続は終了しておりません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

１．当四半期決算に関する定性的情報 …… 2
（１）経営成績に関する説明 …… 2
（２）財政状態に関する説明 …… 3
（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 …… 3
２．サマリー情報（注記事項）に関する事項 …… 3
３．四半期連結財務諸表 …… 4
（１）四半期連結貸借対照表 …… 4
（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 …… 6
四半期連結損益計算書
第２四半期連結累計期間 …… 6
四半期連結包括利益計算書
第２四半期連結累計期間 …… 7
（３）四半期連結財務諸表に関する注記事項 …… 8
（継続企業の前提に関する注記） …… 8
（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記） …… 8
（セグメント情報等） …… 8

１．当四半期決算に関する定性的情報

（１）経営成績に関する説明

当第２四半期連結累計期間における我が国経済は、政府、日銀が一体となった経済対策、大規模金融緩和策などにより、円高の是正や株価上昇の兆しも見え、景況感は回復基調を維持、個人消費においても底固く推移しております。一方で、国際経済においては中国経済の減速、米国金融政策問題などの下振れ懸念を抱え、先行きの不透明感が払拭できない状況にあります。

当業界では、我が国の最重要課題の一つとして「教育の再生」が位置づけられるなか、教育に対する国民の関心は高く、民間教育に対する期待もますます大きくなっております。新学習指導要領においても「生きる力の育成」が目標として掲げられ、単に知識の習得に留まらず、それを活用する力の育成が求められるなど、教育内容の多様化、個別化が進んでおります。各企業は、少子化による市場縮小に加え、生徒、父母が求める教育サービス水準の高まりと、厳しい選別に直面しており、企業間競争は激しさを増しております。

当社グループにおきましては、「独立自尊の社会・世界に貢献する人財の育成」という教育理念をグループ全体が共有し、その実現に取り組んでおります。主要部門である高校生部門（東進ハイスクール、東進衛星予備校等）、小・中学生部門（四谷大塚、東進スクール等）、スイミングスクール部門（イトマンスイミングスクール）を中心に、各部門が、提供するコンテンツの充実や受講環境整備など、「知育、体育、徳育」を総合的に行える体制の構築を一貫して進めてまいりました。また、未来に対し責任を担う教育を業とする会社として、７月１日に日本経済新聞紙上で公表した起業支援の取組みにも大きな反響をいただきました。そのほか、東進ハイスクール講師陣が頻繁にマスコミで取り上げられるなど、当社に関する社会的な認知度も高まっております。

当第２四半期連結累計期間の営業収益は、高校生部門を中心に概ね期初計画に沿って順調に推移し、対前年同期714百万円の増加となる16,545百万円（前年同期比4.5％増）となりました。これは東京大学をはじめとする難関大学への高い合格実績を背景に、厳しい環境のなか，高校生部門を中心に生徒数の増勢が続いていることによるものであります。

費用面では、基礎学力養成のためのシステム開発や校舎現場の指導力強化など、引き続き学力向上に焦点を絞った施策を進めると同時に、各部門において業務改善、効率化に取り組みました。また、当期より全国統一中学生テストを開始、10月実施に向けた募集活動を進めました。これにより、全国統一小学生テスト、全国統一高校生テストと併せ、当社グループで小学生から高校生に至る各段階で全国規模の学力テストを主催することになりました。費用全体としては、４月、５月の事業用不動産取得に伴う登録免許税等124百万円の計上を含め、対前年同期135百万円の増加となる16,038百万円（前年同期比0.9％増）となりました。

この結果、営業利益506百万円（対前年同期578百万円の改善）、経常利益320百万円（対前年同期657百万円の改善）、四半期純利益146百万円（対前年同期525百万円の改善）となりました。

当社グループでは営業収益の計上が生徒募集期に当たる第３、第４四半期に集中し、第１四半期から第２四半期にかけては、費用計上が先行する傾向があります。

（セグメント別の状況）

当第２四半期連結累計期間における各セグメントの業績は次のとおりであります。

なお、セグメント利益（又は損失）は四半期連結損益計算書の営業利益に調整額を加えたものであります。

① 高校生部門

当部門は、東進ハイスクール、東進衛星予備校等で、主に高校生を対象とした教育事業を行っております。当第２四半期連結累計期間のセグメント売上高は8,928百万円（前年同期比7.9％増）、セグメント利益は1,755百万円（前年同期比52.7％増）となりました。

② 小・中学生部門

当部門は、四谷大塚、東進スクール、東進育英舎等で、主に小学生、中学生を対象とした教育事業を行っております。当第２四半期連結累計期間のセグメント売上高は3,771万円（前年同期比2.0％減）、セグメント利益は0百万円（前年同期比99.5％減）となりました。

③ スイミングスクール部門

当部門は、イトマンスイミングスクールとして、主に水泳教室、フィットネスクラブの運営を行っております。当第２四半期連結累計期間のセグメント売上高は3,328百万円（前年同期比4.6％増）、セグメント利益は351百万円（前年同期比82.2％増）となりました。

④ ビジネススクール部門

当部門は、東進ビジネススクール等で、主に大学生、社会人を対象とした教育事業を行っております。当第２四半期連結累計期間のセグメント売上高は232百万円（前年同期比8.9％減）、セグメント損失は156百万円（対前年同期95百万円の減少）となりました。

⑤ その他部門

その他部門は、出版事業部門、こども英語塾部門、国際事業部門を含んでおります。当第２四半期連結累計期間のセグメント売上高は711百万円（前年同期比13.1％増）、セグメント利益は7百万円（前年同期比50.1％減）となりました。

（２）財政状態に関する説明

当第２四半期連結会計期間末における財政状態は、前連結会計年度末に比べ総資産が6,821百万円増加し、49,204百万円に、純資産が827百万円減少して、9,531百万円となっております。総資産の主な異動要因は、事業用不動産の取得等に伴う固定資産の増加9,821百万円があったことに対し、生徒募集期である期末に増加した資金や、順調に回収された売掛金を、運転資金や法人税等の支払などに充当したことによる現金及び預金の減少等、流動資産の減少2,999百万円があったことによるものであります。

また、純資産の減少は、増加要因として当第２四半期純利益146百万円の計上がありましたが、減少要因として配当金764百万円の支出があったことによるものであります。

（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

教育業界は、引き続き厳しい経営環境に置かれておりますが、当社グループにおいては、既存部門を中心に生徒数は増加傾向にあり、夏期特別招待講習などの募集活動も順調に推移しております。

この状況を踏まえ、平成26年３月期通期の連結業績予想につきましては、前回発表（平成25年５月１日付「平成25年３月期 決算短信」）の業績予想から変更はありません。

なお、業績予想につきましては、当社が現時点において入手可能な情報に基づいて判断したものであり、今後のさまざまな要因により、異なる結果となる可能性があります。

２．サマリー情報（注記事項）に関する事項

該当事項はありません。

３．四半期連結財務諸表
（１）四半期連結貸借対照表

（単位：千円）

	前連結会計年度 （平成25年３月31日）	当第２四半期連結会計期間 （平成25年９月30日）
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	14,794,728	12,843,369
受取手形及び売掛金	2,336,447	1,173,520
商品及び製品	317,461	313,071
その他のたな卸資産	165,350	150,302
前払費用	979,686	1,012,527
繰延税金資産	405,783	423,329
その他	515,670	592,982
貸倒引当金	△26,871	△20,523
流動資産合計	19,488,258	16,488,579
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	5,824,058	7,926,480
工具、器具及び備品（純額）	624,690	667,937
土地	3,826,733	11,714,572
建設仮勘定	1,049,454	38,618
その他（純額）	247,296	217,896
有形固定資産合計	11,572,232	20,565,504
無形固定資産		
その他	1,855,470	2,526,741
無形固定資産合計	1,855,470	2,526,741
投資その他の資産		
投資有価証券	3,384,040	3,477,793
長期貸付金	126,248	195,702
長期前払費用	572,642	602,833
敷金及び保証金	4,275,963	4,172,963
繰延税金資産	823,510	897,498
その他	429,666	418,946
貸倒引当金	△145,121	△142,026
投資その他の資産合計	9,466,950	9,623,710
固定資産合計	22,894,654	32,715,956
資産合計	42,382,913	49,204,536

（単位：千円）

	前連結会計年度 （平成25年３月31日）	当第２四半期連結会計期間 （平成25年９月30日）
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	344,456	163,644
短期借入金	2,731,725	5,341,763
未払金	2,658,874	1,790,795
未払法人税等	1,700,299	216,068
前受金	2,277,783	1,941,830
賞与引当金	467,443	412,679
役員賞与引当金	42,252	24,321
返品調整引当金	24,865	24,587
預り金	2,342,565	732,196
その他	2,280,522	2,548,285
流動負債合計	14,870,788	13,196,172
固定負債		
社債	11,016,300	15,554,500
長期借入金	2,673,604	7,403,302
退職給付引当金	1,444,090	1,509,281
役員退職慰労引当金	678,686	686,789
資産除去債務	1,014,029	1,021,533
その他	326,007	301,347
固定負債合計	17,152,717	26,476,754
負債合計	32,023,505	39,672,927
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,138,138	2,138,138
資本剰余金	2,141,151	2,141,151
利益剰余金	7,363,999	6,746,072
自己株式	△1,342,295	△1,467,408
株主資本合計	10,300,994	9,557,954
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	31,382	△60,615
為替換算調整勘定	27,029	34,270
その他の包括利益累計額合計	58,412	△26,345
純資産合計	10,359,407	9,531,609
負債純資産合計	42,382,913	49,204,536

（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
（四半期連結損益計算書）
（第２四半期連結累計期間）

（単位：千円）

	前第２四半期連結累計期間 （自　平成24年４月１日 至　平成24年９月30日）	当第２四半期連結累計期間 （自　平成25年４月１日 至　平成25年９月30日）
営業収益	15,830,597	16,545,227
営業原価	11,766,061	12,179,561
営業総利益	4,064,535	4,365,666
販売費及び一般管理費	4,136,224	3,858,718
営業利益又は営業損失（△）	△71,689	506,947
営業外収益		
受取利息	9,437	6,713
受取配当金	35,297	36,666
受取賃貸料	11,714	7,765
為替差益	－	65,527
その他	66,804	66,069
営業外収益合計	123,254	182,743
営業外費用		
支払利息	115,710	174,939
社債発行費	126,666	129,917
その他	145,938	64,402
営業外費用合計	388,315	369,258
経常利益又は経常損失（△）	△336,750	320,432
特別利益		
固定資産売却益	－	13,807
特別利益合計	－	13,807
特別損失		
固定資産処分損	15,669	54,913
投資有価証券売却損	－	16,396
投資有価証券評価損	2,272	11,301
特別損失合計	17,941	82,611
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失（△）	△354,692	251,628
法人税、住民税及び事業税	190,382	150,411
法人税等調整額	△166,201	△45,528
法人税等合計	24,181	104,883
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失（△）	△378,873	146,744
四半期純利益又は四半期純損失（△）	△378,873	146,744

（四半期連結包括利益計算書）
（第２四半期連結累計期間）

（単位：千円）

	前第２四半期連結累計期間 （自　平成24年４月１日 至　平成24年９月30日）	当第２四半期連結累計期間 （自　平成25年４月１日 至　平成25年９月30日）
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失（△）	△378,873	146,744
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	3,473	△91,998
為替換算調整勘定	△10,128	7,240
その他の包括利益合計	△6,654	△84,758
四半期包括利益	△385,528	61,986
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	△385,528	61,986

（３）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（セグメント情報等）

Ⅰ　前第２四半期連結累計期間（自　平成24年４月１日　至　平成24年９月30日）

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント					その他（注）１	合計	調整額（注）２	四半期連結損益計算書計上額（注）３
	高校生部門	小・中学生部門	スイミングスクール部門	ビジネススクール部門	計				
売上高									
外部顧客への売上高	8,163,153	3,833,323	3,183,159	254,789	15,434,425	396,171	15,830,597	―	15,830,597
セグメント間の内部売上高又は振替高	111,474	15,300	―	―	126,775	232,693	359,468	△359,468	―
計	8,274,628	3,848,624	3,183,159	254,789	15,561,201	628,864	16,190,065	△359,468	15,830,597
セグメント利益又は損失（△）	1,149,978	149,283	193,226	△61,893	1,430,595	15,678	1,446,273	△1,517,963	△71,689

（注）１　「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、出版事業等を含んでおります。

２　セグメント利益又は損失（△）の調整額△1,517,963千円には、セグメント間取引消去22,392千円、のれん償却額△264,016千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,276,338千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

３　セグメント利益又は損失（△）は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

２．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

Ⅱ　当第２四半期連結累計期間（自　平成25年４月１日　至　平成25年９月30日）

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント					その他（注）１	合計	調整額（注）２	四半期連結損益計算書計上額（注）３
	高校生部門	小・中学生部門	スイミングスクール部門	ビジネススクール部門	計				
売上高									
外部顧客への売上高	8,791,514	3,755,234	3,328,857	232,187	16,107,793	437,433	16,545,227	―	16,545,227
セグメント間の内部売上高又は振替高	137,047	15,978	―	―	153,025	273,998	427,024	△427,024	―
計	8,928,561	3,771,212	3,328,857	232,187	16,260,819	711,432	16,972,251	△427,024	16,545,227
セグメント利益又は損失（△）	1,755,571	726	351,966	△156,943	1,951,321	7,821	1,959,143	△1,452,195	506,947

（注）１　「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、出版事業等を含んでおります。

２　セグメント利益又は損失（△）の調整額△1,452,195千円には、セグメント間取引消去△1,964千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,450,231千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

３　セグメント利益又は損失（△）は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

２．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。